

# 病害虫防除技術情報第17号

平成 27 年 2 月 19 日  
三重県病害虫防除所

**イチゴのハダニ類が増加しています！**  
**発生密度の低いうちに薬剤散布を行ってください。**

1. 対象作物：イチゴ
2. 病害虫名：ハダニ類
3. 発生状況：多

- (1) 2月上旬の巡回調査では、寄生株率 23.2% (平年 16.7%) と平年より多くなっています (図)。
- (2) 一般圃場においては、発生量は平年より多い状況です。
- (3) 1 か月予報 (2 月 12 日・名古屋地方気象台発表) によると、平年と同様に晴れの日が多い予想であり、ハダニ類の発生に好適な条件が続くと考えられるため、注意が必要です。

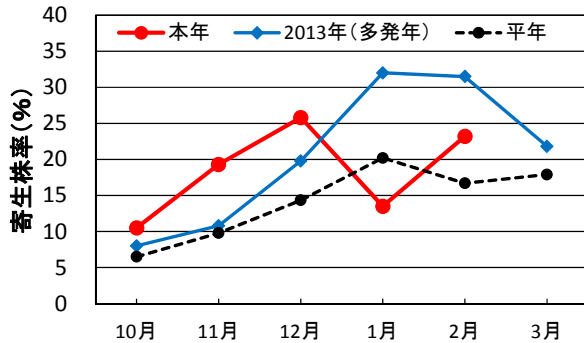


図 巡回調査におけるハダニ類の寄生株率  
※県内 12 圃場、各圃場 50 株調査。  
※平年は過去 10 年間の平均値。

表 イチゴのナミハダニに対する薬剤感受性検定試験結果 (三重県農業研究所)

成分名	商品名	薬剤の分類 <sup>※1</sup>	検定結果 <sup>※2</sup>
ミルベメクテン水和剤 <sup>※3</sup>	コロマイト水和剤	虫6	△
ピフェナゼート水和剤	マイトコーネフロアブル	その他	◎
アセキノシル水和剤 <sup>※4</sup>	カネマイトフロアブル	虫20B	◎
シフルメトフェン水和剤	ダニサラバフロアブル	虫25	△
シエノピラフェン水和剤	スターマイトフロアブル	虫25	△

※1: 平成26年版三重県病害虫防除の手引き参照。  
 ※2: 雌成虫の補正死亡率が85%以上の検定事例数の割合 (%) を算出し、その割合が75%以上: ◎、50%以上75%未満: ○、25%以上50%未満: △、25%未満: ×、とした。  
**※3: ミルベメクテンは天敵(テリカブリダニ、ミヤコカブリダニ)への影響に注意する。**  
 ※4: アセキノシル水和剤は葉害(葉裏の変色)に注意する。

## 4. 防除上の注意事項

- (1) 現在発生が少ない場合でも、多発すると防除が難しくなります。圃場全体をよく観察し、発生密度の低いうちに薬剤散布を行ってください。
- (2) 薬剤散布前に下葉を整理し、葉裏にもかかるよう丁寧に散布してください。
- (3) ハダニ類は薬剤抵抗性が発達しやすく、同一系統薬剤の連用により薬剤感受性が低下する恐れがあります。県内においても、薬剤に対して感受性が低下した個体群が確認されています (表)。
- (4) 薬剤の防除効果が低い場合は、ダニ剤に対して感受性が低下していることが考えられるので、気門封鎖剤や天敵(カブリダニ類)を活用してください。
- (5) ハダニ類の密度が高い状況で天敵を導入する場合は、薬剤防除(天敵に影響が小さく、感受性低下が問題とならない剤)で一旦ハダニ類の密度を下げた後で導入してください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。